

## 【臨床・研究】

## 腹臥位がとれない重度身体障害者に対する前傾側臥位の試み

なか 寺 尚 志                      ほし の こう たらう  
中 寺 尚 志                      星 野 弘 太郎

キーワード：重度身体障害者，随伴症状，ポジショニング，前傾側臥位

### はじめに

自ら姿勢変換の出来ない重度身体障害児者に対する24時間ポジショニングは重要な支援の一つである。その中で腹臥位は呼吸状態，筋緊張や非対称性の改善が出来るポジションとしてコンセンサスが得られている<sup>1,2,3)</sup>。しかし全身に及ぶ高度な関節拘縮，姿勢の固定化，筋緊張亢進のために腹臥位がとれない或いは取ることが困難な症例が存在することも事実である。このような一症例に腹臥位に近似した呼吸リハビリテーションの体位排痰法の一つである前傾側臥位を導入し，筋緊張の緩和と呼吸状態の改善を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

### 症 例

32歳男性，13歳時の無酸素脳症による重度四肢麻痺，全身の拘縮が著明で固定化しており，胃瘻が造設されている。いびき，頻繁のムセや気管支炎，肺炎の罹患，SpO<sub>2</sub>は92~96%，腹臥位を取ろうとすると著明な拘縮，変形のため前胸部に腕や拳が当たり，約20年間に及ぶ臥位生活のため，



図1 症例

32歳 男性 無酸素脳症による重度四肢麻痺  
四肢体幹の関節拘縮著明，体は棒状の固定化，胃瘻造設

骨粗鬆症による易骨折性から骨折発生が予想されることや筋緊張の増大が起こるために腹臥位がとれない症例である（図1）。

### 保持具の作成

前傾側臥位を安全に，安楽に行うためには腹臥位と同様に個々の症例にあった保持具の作成が必要であり，体型にあった保持具を作成した。前傾側臥位のセット方法：仰臥位の時に保持具をセットし，これと体を一体として回転させ，前傾側臥